

自然宿泊体験活動学習

教科・領域 特別活動

周防大島町立明新小学校第5学年

キャリア教育の観点

豊かな体験活動推進事業における集団宿泊体験活動と民泊体験活動を中心に、自分の地域や将来に目を向けさせる活動です。ねらいは次の3つです。

- ① 宿泊体験活動を通して、児童の社会性や豊かな人間性を育てる。
- ② 農漁村の自然や人々との交流の中で、生きて働くことの意味やすばらしさ、重要性を感得させる。
- ③ 自主・自立的な共同生活を通して、規律ある生活態度と集団行動の仕方を身に付ける。

【人間関係形成・社会形成能力】【課題対応能力】

事前準備

7月下旬の体験活動実施に向けて、1か月前の6月上旬より事前指導を実施した。主な指導内容は、以下の3点である。

① 周防大島の町のよさについて考える学習

道徳の学習「夏休みの白川郷（郷土愛・愛国心）」において、わが町のよさ・古くからの伝統を重んじる資料から、周防大島町の自慢できるところ・これから先に引き継いでいきたいところを考える授業を行った。

② 体験活動の計画立案

全体計画を児童に示して各活動に対する目標や見通しをもたせた。また、高学年集合学習（3校集合）での各校教諭との児童の健康状況や人間関係を十分に話し合い、学級活動の時間で班編制、班長や役割分担など決め、班員でよりよい自然宿泊活動に向けて目標設定を行った。



【民泊班に分かれての班目標設定及び役割分担決め】

③ 体験活動の自己目標設定と自己紹介シート（民泊先宛への手紙）作成

ワークシートを用いて、体験活動の自己目標の設定と民泊先への自己紹介シートを作った。

活動の展開

① 集団宿泊体験活動（平成25年7月30日（火））

B & G 海洋センター、橘ウインドパーク）

B & G 海洋センターでのカヌー体験活動、橘ウインドパークを利用した集団宿泊活動を実施した。橘ウインドパークでは、集団行動の規律や心得、自主・自立の精神の大切さについて学んだ。後に実施する民泊体験学習の心構えをつくるよい機会となった。また、山口県立博物館から講師を招聘し、天体観測指導を実施した。



【左：B & G 海洋センターでのカヌー指導 中：天体観測 右：反省会】

② 民泊体験活動（平成25年7月31日（水）・8月1日（木）・2日（金））

周防大島町体験交流型観光推進協議会の選定する民泊受入家庭8戸）

周防大島町体験交流型観光推進協議会が選定した民泊受入家庭8戸において民泊体験活動を実施した。男女別3～4人程度の班に分かれ、それぞれの民泊先で企画・準備して頂いた職業体験や自然体験等を行った。職業体験及び自然体験活動の主な内容は、地引き網漁体験、漁船による漁業体験、農作業体験、家畜の世話やロープワーク活動、海蛸の捕獲体験等の周防大島町ならではの多岐にわたるものとなった。また、体験活動の詳細内容について活動日の農漁村での生活体験と人々とのふれあいがより感動豊かなものになるように仕組んだ。夏休み中ともあり、中には、民泊家庭先のお孫さんと一緒に活動したグループもあり、新たな仲間の輪が広がった。



【民泊先での様々な体験活動；左：入村式、中：自己紹介、右：地引き網活動】



【民泊先での様々な体験活動；

上左：漁船漁業、 上中：ロープワーク、 上右：魚の3枚おろし

下左：そうめん流し、下中：民泊家庭への感謝の気持ち発表、下右：お別れ】

事後指導

2学期に入り、民泊受入家庭にお礼状を作成・送付した。

9月12日（木）には、運動会の案内状作成で各児童1枚ずつ作成・送付した。運動会当日には、お忙しい中にも関わらず3家庭の方々が児童の応援や激励に足を運んでくださった。

10月3日（木）の授業（高学年後期集合学習）にて「お礼状・近況報告」の作成指導を行った。民泊活動からおよそ2か月経っていたが、児童の思いをはたくさんあり、何かから書いてよいか迷いながら書く児童もいた。

今後の改善の取り組み

本体験活動の教育効果をしっかりととらえ、今後の学校教育に生かしていく上で、以下の点をより細かに検証・改善していきたい。

- ① 各校の学校経営目標や児童の実態とを照らし合わせ、体験活動を通して「児童に養いたい力」を早い段階からより明確にして、その実現に向けて学習活動を進めていくこと。
- ② 一過性の体験とならぬよう、従来実施してきた学校行事や地域行事の中で、児童がより主体的に活動及び他者とのコミュニケーションを行おうとする場面設定を工夫していくこと。